

未来へつなげる林業体験 河北小学校児童が参加

11月8日、檜山振興局が主催する林業体験が実施され、河北小学校の5・6年生7名が参加しました。

この取り組みは、子どもたちの林業に対する関心を高めることを目的として実施され、北海道指導林家の菊地時男さん（字大留）と木育マイスターの澤谷敦さん（字大留）が講師となり、ヒバの植樹や枝打ちを体験しました。

児童たちは、苗が木材として使える大きさに育つまでに100年かかるとの説明を受け、とても驚いた様子で、手入れの大変さや資源を未来に残す大切さを学ぶことができたようです。



赤い羽根共同募金 表彰状伝達式

10月25日、健康づくりセンターにて、大島司さん（字大留）に北海道共同募金会より表彰状が授与されました。

大島さんは長年にわたり、本町と檜山地方の共同募金会の会長を務め、町内だけでなく檜山全体の活動に尽力された功績が認められたことから、今回の受彰となりました。

式では北海道共同募金会の成田達哉事務局次長より、表彰状と記念品が贈呈され、大島さんは「今回の受彰とともに活動を支えてくれた仲間や妻のおかげ、とてもありがたい」と話されていました。



焼きだてのサンマ味わう 上ノ国保育所

10月14日、上ノ国保育所では園児たちの食育の一環として、命や食の大切さ、旬の味覚を学ぶことを目的とした「サンマの日」が開催されました。

この取り組みは毎年秋に実施されており、年長組の園児たちは興味深そうに生のサンマを観察したあと、自らの手で炭の上にのせ、先生にサンマを焼き上げてもらい、まわりにおいしいそうな匂いが漂っていました。

園児たちは「おいしい、もつと食いたい」など旬の味覚を大いに楽しんでる様子でした。



日頃の学習成果をお披露目 上・河北小で学習発表会

10月24日に河北小学校、31日には上ノ国小学校で学習発表会が開催されました。

今年の学習発表会も両校ともに換気や入場制限、学年ごとに発表時刻を分けるなど、感染症対策を講じた上で開催され、児童たちは劇や舞踊など、この日のために一生懸命に努力してきた成果を十分に発揮し、堂々と発表をしていました。

来場された保護者の方は、児童たちの頑張る姿を優しい笑みで見守り、時おり大きな拍手を送るなど、盛況のうちに幕を閉じました。

